

とうきょうのフクロウ類は今・2

意外に知られていない都会のフクロウ(1)

都内のさる公園では近隣にお住まいの方たちが「フクロウの鳴き声を耳にするが居るのか？」という疑問を持ち続けてきました。しかし、行動時間帯が夜間ということと、別の場所から飛来してたまたま鳴いていたのか判らないので、ある意味「都市伝説」のようになっていたようです。

野鳥観察をしていた私達もこうした質問を複数回受けていましたが、誰も視認していなかったので「開園時間帯しか観察ができないので不明」と答えていました。しかし、2016年12月21日、写友のSさんが老木の樹洞から外を見ているフクロウの顔を発見して撮影したことにより、近隣の皆さんが持ち続けてこられた疑問に対する答えを見出すことができました。

これをきっかけとして、私の中に「フクロウの観察」という大きな目標ができました。しかし、観察しようにもフクロウを発見しなければ先には進めません。フクロウが好む樹木の形状や種類、鳴き声の種類などを調べたうえで、カメラと双眼鏡を手に園内を探索しましたが、フクロウが潜んでいそうな樹木はどれも非常に高木です。更に、フクロウは基本的に昼間の活動をする鳥でないことが困難さに追い打ちをかけました。

3ヶ月を過ぎようとする頃、漸くフクロウが潜みそうな場所数カ所を絞り込むことができたことから、枝から枝に飛び移る姿も見ることができるようになりました。しかし、遠い・暗い・飛翔が意外に早いなど、撮影条件が極めて悪く証拠の画像を記録として残すことは困難を極めました。そんな手詰まり状態の頃、樹洞での初認から約4か月後、20m位の樹上でヴォォ・ヴォォ・ヴォォと連続して鳴く声を耳にしたので、近くで姿を隠して待つこと約1時間。突然、フクロウが樹上から舞い降りて地上10m位に出ている横枝にとまりました。



写真1 初の全身撮影

フクロウの圧倒的なボリューム感と出会えた感激に震える指でシャッターを押して初の全身撮影に成功しました。(写真1)

以来、1ヶ月半位の間に数回の観察をすることができましたが、6月後半からその姿を見ることができなくなりました。当時「暑い季節は何処かに移動するのかな？」と考え、探索をすることもなく秋を迎えたある日、大きな桜の樹上をふと見上げると、なんとフクロウが小枝にとまっているではありませんか。更に驚いたことに、1羽が飛び立った後から、葉に隠れていたもう1羽が後を追うように飛び立ったのです。この時、初めて園内にフクロウが2羽居ることを突き止めました。この瞬間、数回の撮影で感じた「なんか顔が違うような…」という疑問が氷解しました。と同時に、繁殖の可能性ということが頭に浮かびました。実際、フィールドで撮影をしていると幾度となく微笑ましい場面に遭遇します。(写真2)



写真2 微笑ましいペアのようす

こうした実体験と撮影結果を踏まえた上で「日本野鳥の会・東京 研究部」に今後の調査へのご指導を仰ぐべく、情報提供をさせていただいた次第です。 <続く>

※希少種保護のため、場所・執筆者は伏せています。

繁殖期調査・2021 第1弾 東京の“新・三大鳴鳥”は

キビタキ・ウグイス・イソヒヨドリの共通点は？・・・答えは名代の名歌手たち。キビタキはソプラノ、ウグイスはアルト、そして新顔のイソヒヨドリはテノールか。いずれも自然豊かな森や海岸にいる鳥で、喧騒の街・東京のイメージではないと思われるかもしれませんが、キビタキは明治神宮で、ウグイスは多摩川下流でも、そしてイソヒヨドリは銀座のビルの屋上で囀りが響いています。そしてその歌声は各地に広がりつつあるようです。

コロナ禍のなか、遠出は控えて、身近な場所で、野鳥たちの子育て状況を調べてみましょう。興味ある鳥の繁殖期の情報をお寄せください。 [研究部]

越冬期調査・報告3

町田市の池と川 …………… 冬の薬師池と恩田川の水鳥たち

表1 [単位:羽]

No.	種名	年月	2018.12-19.2	2019.12-20.2	2020.12-21.2
1	オシドリ				1♂
2	オカヨシガモ		2♂♀	2♂♀	
3	マガモ		6		
4	カルガモ		8	10	12
5	トモエガモ				1♂
6	ホシハジロ			2	4
7	メジロガモ		1♂		
8	キンクロハジロ		22	12	6
9	スズガモ				1♂
10	カイツブリ		5	6	5
11	カワウ			1	
12	ゴイサギ				1
13	ダイサギ			1	
14	コサギ			1	1
15	アオサギ			1	1
16	カワセミ		2	2	2

薬師池は野津田町の薬師公園にあるため池。冬場はキンクロハジロが席捲していたが年々減少している。最近ではコサギ、アオサギなども顔を見せるようになった。今冬はオシドリ、トモエガモ、スズガモ、ゴイサギなどが現れ、異変が起きている。 [表1] [報告者: 松岡雄治]

恩田川は町田市内を水源とする鶴見川水系のひとつで、調査はおもに成瀬の都橋～南大谷の坂下橋の約3km。川は三面護岸で、両岸はほとんどが住宅地だが、川沿いに小規模公園5か所、小規模緑地が1か所。冷たい水が流れ込むところがあり、オイカワなどが生息していて、カワセミがよくいる。 [表2] [報告者: 村松俊一]



薬師池 [倉持内武氏提供]

表2	調査年	2018-19年			2019-20年			2020-21年		
No.	調査日	12/9	1/27	2/23	12/30	1/22	2/24	12/20	1/30	2/23
1	カルガモ	42	38	37	32	44	37	46	31	45
2	オナガガモ		8♂ 5♀	4♂ 3♀	1♂	2♂ 2♀	2♂ 1♀			
3	コガモ	27♂33♀	33♂29♀	28♂24♀	36♂42♀	48♂48♀	46♂52♀	24♂24♀	35♂36♀	31♂34♀
4	カワウ	3		1	2	4	2		2	2
5	ダイサギ			1	2		1		1	
6	コサギ			1	5	1	3	3	2	4
7	バン		1					1	1	1
8	タシギ							1*		
9	イソシギ				2	1	2	2	3	2
10	カワセミ	3		5	5	3	4	8	8	6